

斑点米カメムシ情報第2号

平成24年7月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

7月上旬の県内106ほ場巡回調査の結果、斑点米カメムシ類のすくい取り頭数（捕虫網20回振り）の合計は、水田内では0.50頭／ほ場（平年0.75頭／ほ場）、畦畔雑草では10.98頭／ほ場（平年10.47頭／ほ場）で、平年並の捕獲数でした。しかし、ミナミアオカメムシは、水田内では0.02頭／ほ場（平年0.01頭／ほ場）と、過去4年と比較して2番目に多く、畦畔雑草では0.13頭／ほ場（平年0.01頭／ほ場）と、過去4年と比較して最も多い捕獲数でした。

また、予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数が6月中旬以降急増しました（図）。

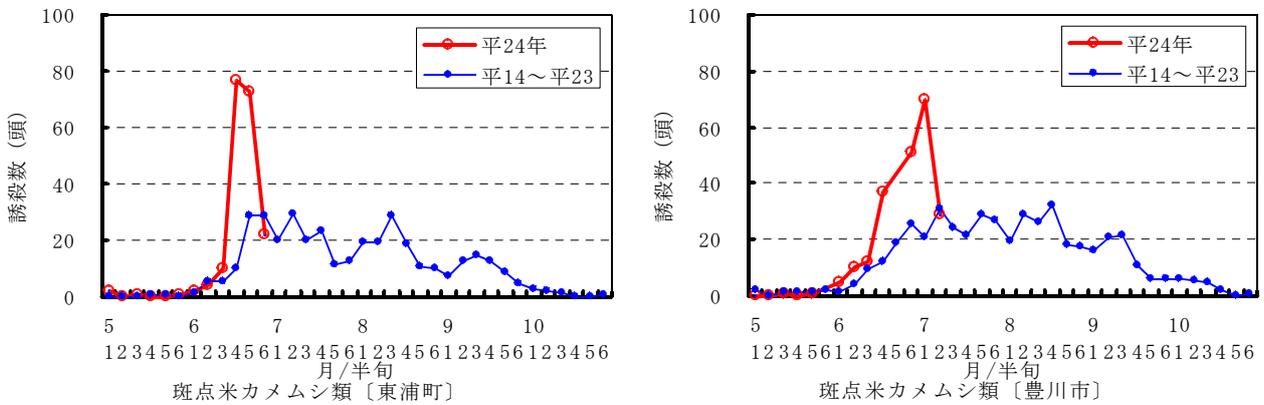


図 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

2 防除対策

斑点米カメムシ類は水田周辺の畦畔や堤防などのイネ科雑草などで増殖するので、雑草の除去を徹底しましょう。ただし、出穂間際または出穂後の除草は斑点米カメムシ類を水田に追い込むことになるので控えてください。また、水田内で穂をつけたヒエ類は、斑点米カメムシ類の発生を助長するので除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、畦畔雑草や水田内でカメムシ類を確認したら、穂揃前に薬剤防除（表）を実施し、その後も発生が多い場合は7～10日後に再度防除を実施してください。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬 剤 名
トレボン乳剤
キラップフロアブル
スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤
ベストガード粒剤
キラップ粒剤
ダントツ粒剤
スタークル粒剤、アルバリン粒剤
スタークル豆つぶ

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。